議 事 録

会議の名称	令和7年度岩倉市自殺対策計画推進委員会
開催日時	令和7年5月19日(月) 午後2時から3時20分まで
開催場所	岩倉市役所 第一委員会室
出席者	大藪元康委員長 若杉賢司委員 伊藤文副委員長 王子田美樹子委員 辰田紘崇委員 小川美枝子委員 渡邊あけみ委員 渡辺啓司委員 松本勇二委員 山田道子委員 福祉部長(佐野剛) 福祉課長(古田佳代子) 福祉課社会福祉グループ長(小南友彦) 福祉課社会福祉グループ主査保健師(佐野和代) 福祉課社会福祉グループ主査(浅井淳一郎)
欠席者	佐藤振一郎委員 押谷 誠委員
説明者	福祉課社会福祉グループ(浅井淳一郎)
会議の議題	1 あいさつ 2 自己紹介 3 議題 (1) 岩倉市における自殺者の状況について (2) 令和6年度計画推進進捗報告について(第2期計画) 4 その他
議事録の作成方法	☒ 要点筆記 ☐ 全文筆記 ☐ その他
記載内容の確認方法	☒ 会議の委員長の確認を得ている ☐ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他()
会議に提出された資料の名称	(資料1) 岩倉市自殺対策計画推進委員会名簿 (資料2) 令和6年度岩倉市自殺者数(確定) (資料3) 地域自殺実態プロフィール2024 (資料4) 自殺対策計画進捗確認シート(基本施策) (資料5) 自殺対策計画進捗確認シート(重点施策)
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	なし

1 あいさつ

2 自己紹介

3 議題

（1）岩倉市における自殺者の状況について

事務局から資料2、資料3により説明。

委員長：令和6年については自殺者数が10人であった。令和5年は4人だったため、数値的には2.5倍になっているが、令和4年が10人であったため令和5年が少なかったと思われる。

委員：資料2、資料3は年度なのか。年なのか。

事務局：年度ではなく年（1月から12月まで）の集計である。

委員長：岩倉市は全国平均と比べて、年齢の傾向がつかみにくい。就労関係としてどう思われるか。

委員：コロナの影響が中小企業を中心にまだ続いていると思われる。ただし、自殺につながっているかどうかは、特徴的なものが見えないと思われる。

委員：岩倉市の場合は令和5年から増えたが、全国的には増加傾向なのか。

事務局：全国的には令和6年は20,320人で令和5年と比べると1,517人減っている。また、愛知県の自殺者数は令和6年が1,201人で昨年度と比べると5人増えているが、数値的には横ばい傾向である。

委員：資料3の地域自殺実態プロファイル2024を確認にすると岩倉市の場合は高齢者が高くなっているが、老人クラブとしてはどう思われるか。

委員：岩倉市の場合自殺者数が少ないため1人2人増えたら、割合が急激に増えてしまう。考え方がいろいろあるため難しい。

委員：知り合いの人が長期の治療をしていた。自殺はされないと思われるが、意欲的に生きる気がないと言っていた。猫は、自殺はしないが、食べるのをやめて死

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

を選ぶ傾向がある。そういう可能性があると思われる。人それぞれ事情があり、共通点が見つかるかわからない。自分も高齢者の世代で、だんだん生きづらくなっていると感じている。

委員長：その世代をどう支えるかが課題になると思われる。

委員：自分も高齢なため親に対して老々介護になっている。どう接していいかわからない。以前、老人クラブの人が家に訪問してくれ、集金やお知らせ等を持参してくれていたが、最近来ていないようだ。

委員：老人クラブとしては、老人クラブに入会するように誘っているが、本人が入会しないと、お知らせやイベントなどの連絡につながらない。また、役員が不足しており、地区の老人クラブが無くなる地区もある。以前は、老人クラブ加入年齢名簿等の提供があり、その名簿を使って、入会の勧誘をしていたが、個人情報との関係があり、名簿が提供されなくなってしまった。そのため、地域の人で老人クラブに入れる年齢かどうか把握できない状況であるが、様々な機会での入会の呼びかけは行っている。

委員：社会福祉協議会として気になるのは、60歳以上の男性の比率が多い。この原因は、介護の悩みから自殺のパターンが多く、老々介護している男性のほうが自殺の確率が高い。ニュースもこのパターンも多く、虐待も発生しており、介護している人への支援も必要だと思う。

委員：資料3の年代別の死亡率のグラフを見ていると、どんな状況で自殺したのかと思った。集計等で数値化してあるが、年代で自殺する、しないは関係なく、個人個人の悩みであり、数値化が難しいと思った。

委員：こころの健康相談の相談員として、子育て、健康診断など保健師さんが特化して相談につなげてくれている。また、集まりや積極的に来ない人たちや働き盛りの人たちどう拾い上げるかが課題となると思う。なお、相談の予約については今までは電話だったが、インターネットでも予約ができるようになり、予約が入るのが増えてきている。なお、まだ相談を必要としている人で知らない人にどのように周知していくかが課題になると思う。

委員長：発信し続けるのが重要だと思う。保健所としてはどう思われるか。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

委員：保健所としては、資料2の令和6年の報告の際に20歳未満女性が自殺しているのが気になる。次年度の重点パッケージでも数値で挙がってくると思われる。若年層の自殺対策が重要になってくると感じた。保健所で精神保健の業務を行っており、若年の特に中学生の相談も増えてきている。夜中に家族間トラブルで警察が入ることが増えてきている。若年性の自殺対策が改めて必要だと感じた。

委員：必要な人は、自分で何とかしなければならないと思いき、疲れてしまっているように感じる。いかに必要な人に、必要な支援につなげるか重要だと感じた。委員を始めて3年になるが、委員を始めた当初は、多くの相談や支援窓口があることに知らなかった。多くの人に窓口等をつなげられるとよいと思った。

委員長：インターネット等で「自殺」と検索すると、自殺の相談窓口が表示されるようになっていて社会全体で自殺対策等の必要性を感じていることが実感できる。

（2）令和6年度計画推進進捗報告について(第2期計画)

事務局から資料4、資料5により説明。

委員：大切な人を亡くした人のお話し会について、自分が民生委員で担当している人が参加している。その人は、何年もお話し会に通っているが、まだ支えてあげなければいけない状況である。いつまでその状況が続くものなのか。

事務局：先日参加した際に、その本人にお会いした。来てくれた人に対して、お話聞く立場であったが、やはり、まだ気落ちはされていた。期間はやはり人によるため、長引く人は長引く傾向がある。

委員長：ゲートキーパー研修受講者の数値の目標は2029年までの目標600人になっているため、目標数値に向けて対応してほしい。

委員：ゲートキーパー研修は広報等で周知されていて、見ることはあるのだが、出たほうがいいのかなと思っているが、なかなか受講できていない。出たほうがいい職種等はあるのか。個別に案内はしていないのか。

事務局：個別の発送はしていない。令和7年度のゲートキーパー研修は、前年度と同様2回考えており。そのうち1回は一般的な研修を行い、もう1回は特化した研修を考えている。なお、今回は妊産婦の死亡の原因として自殺が2020年から

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1位となっていることから、妊産婦の自殺のゲートキーパー研修を考えている。妊産婦については保健センターの保健師が個別訪問していたり、母子手帳交付したりしているため、その際にゲートキーパー研修があることを周知しようと思っている。

委員：ゲートキーパー研修の受講募集について 各団体向けにアプローチしたほうがいいのではないか。少しプッシュしたほうがいいのではないか。

委員長：強制ではなくて関係団体にむけてチラシを配布してもいいかもしれない。

委員：相談窓口で相談してどうなるか、相談してどうなったかが聞きたい。結末が知れたらよいと思った

委員：3年前まで民生委員をやっていたが、地域にひとり暮らしの高齢者が多くいることに気づいた。このままでは良くないと思い、月1回サロンを立ち上げた。様々な企画を考え、このサロンは3年経過しているが来る人が減っておらず、来る人が楽しみにしてくれている。来てくれた人たちに、また来てもらえるように、声かけを必ず行っている。ひきこもりにならないように地域で活動している。

委員長：まさにその活動こそが地域福祉につながっており、ひいては自殺対策につながっていると思われる。また、サロンについては、回数を増やすのではなく、長く続けられるとよいと思った。

委員：青年に関する社会教育の仕事をしていたが、その際に高校生が、友達が欲しいと相談してきた人がいて驚いた。みんな友達になれるのに不思議だなと思った。色々な人がいるため、色々な場所があればよいと思った。自分自身はサークルには参加している。色々な人がいて、色々な集まれる場所が増えるとよいと思う。考える人は大変だと思うが、担当する職員を増やすなどして対応できるとよい。

委員：町内会長をやったことあるが、自分の住んでいる地区では、昔から住んでいる人のみが町内役員等をやっていると思われる。新しく引っ越してきた人でも町内役員等をやりたい人がいると思われる。昔から住んでいる人がやっているだけが問題点だと思う。

委員長：専門的立場で社会福祉協議会としてどう思われるか。

委員：いろんな人がいて、サロン等のいろんな集いの場があればいいが、地域共生化社会であるため、やる人、やってもらう人では無く、待っているだけでは良くない。いろんな場所があればいいと言うだけではなく、必要であると思うなら作るようにしてもらえればよい。発言するだけの人の限って、行動しないが、気楽に考えて、お互いさまの環境をつくれればよいと思う。人間関係もあるし、いろんな形のものがあれば良いと思う。

委員：下本町にもサロンがあり、現在は前任者から踏襲して続けている。いろいろなところでお誘いはしているが、集まるメンバーはいつも一緒になってしまっている。

委員：重層的支援体制事業について、すごく良いと思った。今までは、ひきこもりの支援をつなぐ先がなかったため。また、ゲートキーパー研修の2回目の研修内容で、対象者を絞るのはいいことだと思った。たくさんの資源の窓口があることに気づけた。必要な人に必要な支援につなげられるようにしたいと思った。

委員：いろいろな取り組みをしていると感じられた。4月から異動してきたばかりなので、地域の実情がわかっていないが、つながりが必要な人が、つながっていないため、つなげられるよう、何か検討していく必要があると思う。また、先ほど発言があった、相談した結果がどうなったかについては、個人情報もあるため、公表は難しいと思うが、相談しても何も変わらなかったということは無い。一度相談していただいたことにより、本人の中で何か引っかかって気楽に何かしら連絡してもらえれば良い。薄くてもつながることが大切だと思われる。

委員長：自殺しなかったという 相談の効果を出すのは難しいと思う。

3 その他

事務局：これにて、本日の委員会を終了とする。